放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.06.22//no.34

赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万　ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値
文部科学省制作

子どもたちの被ばく線量調査 - 3

誤魔化しで固めた「放射能安全神話」
専門家があきれた低レベルの見解！

〈mSv＝ミリシーベルト〉

前号で、県は、1～3月の2カ月間、子どもたち3054人の放射線被ばく累積測定結果を、より低く見せるトリックを紹介しました。どう見ても累積被ばく結果は、低線量被ばくの健康被害の可能性があると考えます。

今回は、県有識者会議の「安全ありき」の子どもだましの根拠と論理を紹介します。

参考〈06.03、06.19/下野、毎日〉

県有識者会議は、「将来、健康障害が起きる被ばくではない」と結論づけました。その根拠･論理を具体的に解説しているので見てみましょう。

＊　＊　＊

❖「ヨーロッパで暮らすレベル」

ヨーロッパを持ちだすなら「ヨーロッパ放射線リスク委員会（ECRR）」は、低線量被ばくの危険を警告し、公衆被ばく限度基準(内部被ばく含)年間 0.1mSv を提唱しています。

❖「病気にならなくとも、被ばく線量を下げられるものは下げていく必要がある」

自信が無い？逃げ道作り？やはり、放射線被ばくは健康に悪いということらしいです。

❖「肥満や野菜不足によって、ガンになるリスクよりも低い」

このことは、やはり放射能被ばくは、ガンの可能性があると宣言しています。危険です。

❖「科学的には安全だ」//　なにか、「神が安全だ」と言うから安全らしいです。

❖「科学的推論の数字が県民の安心につながるかは別問題。いかに安心を伝えていくことが重要だ」　//非科学的な「安全」が前提の推論は、県民に信用されることなく、「県」「専門家」という御旗で「安心」を、県民に説得することが重要と言うのでしょう。

風が吹くときは
マスクをしよう!!

布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげ、それを吸い込み、内部被ばくの危険が高まります。屋外スポーツでも！布団･洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッと叩いて取り込み！新たな日常生活の心がけの習慣を！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域

❑　政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv　❑

日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、内部被ばく除外。成人対象で、妊婦、乳児、子ども、女性など無視。
〈上記基準/参考*ICRP-年間1mSv/公衆被ばく限度基準〉
❖年間0.1mSv/公衆被ばく限度基準欧州放射線リスク委員会

❑栃木県原発崩壊前/毎時0.038～0.044μSv❑

日光市放射能汚染分布
2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上～未満		
0.1 未満	1 ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155 ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187 ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152 ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30 ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10 ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2 ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1 ヶ所	0.2%

*〈ICRP　国際放射線防護委員会〉

News - 日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光安全だった宣言〉

❑ 06.17 佐野市内-菅野松本市長「子どもたちを放射能から守るために」講演会（2p.）「内部被ばくの恐ろしさを知って子どもや妊産婦は第1に守ってやらなければならない」

❑**汚染**/06.14 **日光市**足尾渡良瀬川上流－イワナ120～170Bq、ヤマメ130Bq(栃木県)

❑足尾に緑を取り戻そう植樹活動「水と緑の少年隊 in 足尾」、県造園建設業協会主催、県内小中高生、「NPOとちぎ生涯学習研究会」〈06.14 下野〉/放射線量の高い地域で！

❑日光田母沢御用邸「ナスとオウギアヤメ」見ごろ〈06.15 下野〉/0.23 除染対象地です！

❑汚染//06.14 矢板市－山菜モミジガサ 140Bq(栃木県)/特に県北は汚染地帯です！

❑ドイツ//野党90年連合-緑の党/日本に脱原発を求める署名運動展開〈06.17 毎日〉

脱原発１０００万人署名に協力ください!!

集約/6月15日　752万2135人//❖署名継続！まだの方、ぜひ考えてください❖

☢ 放射能は危険 ☢　放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエです。

❑うららかな春。花壇、家庭菜園、楽しみですが土は汚染されており避けたいです。
もし、やるとすれば、手袋、マスクをしてください。終わった後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。服や靴の土･ほこりなどを取ってください。

❑放射能の危険から子どもを守る//高い線量の所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」など考える。相談体制を検討。行政の支援要求。

❖チラシ･バックナンバー見られます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//nairamdal-1871@dream.jp

◆ 06.17 松本市長「子どもを放射能から守るために」講演会-佐野 ◆

子どもを守る不安の中　勇気を！　上

❖「松本市市長//菅谷昭さん❖　〈わかりやすい汚染、被ばくから守る書籍多数〉
チェルノブイリ原発事故で汚染されたベラルーシに5年半に渡って医療活動をする。松本市では、内部被ばくから市民を守ることだけではなく、福島などの子どもたちも受け入れているそうです。松本市広報(2011年12月号/「原子力と放射線被ばく」～チェルノブイリ事故医療支援の経験を通じて～)は、必見です。松本市 HP.参照

政府も、県も、市も、放射能から子どもたちの健康を心配してくれません。そんな中、私たちの仲間は、佐野市での松本市長の講演に参加しました。その紹介です。

〈Y さ ん〉

菅谷松本市長の講演会、行ってよかった～　松本市長のベラルーシ、ゴメリ地区の汚染地帯で生活する人たちの状況について、心に残った話しを一部紹介します。

◎ ＊ ◎ ＊ ◎

『今でも、ベラルーシのホットスポットは立ち入り禁止になっています。現在、ベラルーシ（ゴメリ地区の低線量地域）の医師の話では、子どもの免疫が下がっていて、感染症になりやすく、アレルギー・喘息・皮膚病などが多いといいます。また、妊産婦は胎児異常が見られると中絶を勧めるそうですが、妊婦が出産を希望するから困っています。教育者の話（ゴメリ地区の低線量地域）では、子どもは体力が落ちてきているので疲れやすく、授業や舞踊などの練習も短時間で切り上げています。また、ベラルーシ保健省の話では、低レベルで汚染された地域で生活するには、土壌の定期検査・人間の定期健診・汚染のない食品・保養（なるべく長く）を実施してうまくいっているといいます。

また、チェルノブイリはもう放射能は漏れていないが、福島はまだ漏れていいます。そして、放射能汚染は、中和できず、除染しても移動しただけです。除染してもよいですが、過度な期待をしてはいけない。森の除染は木を根こそぎとって土を剥がねばならないし、チェルノブイリではもう除染はしていません。』

☢ 日光市は放射能汚染地帯！☢ -10 ❑萩垣面❑ I さん Bq/kg ベクレル
❖空間線量 1m　0.76μSv　(2011.12)　「あまりの高線量に驚きました」
❖「シイタケ」587Bq/kg（5月）「公園の検査所で2週間以上かかかり食べて心配に！」

❑幼児、子どもなどは、日光市内に5年、10年‥住み続けると健康への危険が高まる no19
❑日光市内観光業者は、東電(政府)から損害賠償金56億6千万円受理(03.05 時点) no21
❑日光の線量値、3月9日からなぜかグ～ンと低下-文科省、高精度測定器自動化で?no21
❑日光市放射能汚染分布(2012.02-03) アスファルト測定で平均線量24%減少と誤魔化し安全宣言！日光のセシウム合計は半年で約7%減少し、それ以外は移動しただけ！no.26
❑井戸水検査OK-だいや川公園内-日光ブランド情報発信センター放射線検査室 no.33

放射能汚染地帯で健康で生き抜くチエ-3
家庭菜園の野菜、子、孫にチョッと考えて

おじいさん、おばあさんが家庭菜園で、子や孫にうまい新鮮な野菜を食べさせたいと、楽しみにしています。親子、孫との結びつきが希薄な社会で貴重です。

しかし、この大切なつながり、楽しみをも奪いさろうとしているのが、放射能汚染です。そんな中で、「東京の子どもや孫には、送るのをよした」と言う人、どうしたらいいか迷っている人、「心配ない」とこれまで通り送る人に分かれています。

いま、子や孫の健康を考えれば、野菜・果実は、日光だいや川公園内にある測定所で安全を確認してください。また、少しでも汚染の可能性があれば、残念ですが、子や孫、特に、小さな子には送るのを控えた方がよいと思います。これが子、孫に対する愛情の社会になってしまいました。　❖基準値は「安全基準」ではありません❖

なぜ！牛の食べる牧草は市内９点検査、人間の食べる野菜は１点？

〈参考/No33〉

牛の食べる牧草は日光市内9カ所検査、人間様の食べる野菜果実類は1カ所です。この違いを県の担当者に尋ねると、この不可解な理由を、牧草の特殊性で「牧草は水を吸い上げる力とか、種類、状況でかなり違いがあるんです」と。しかし、私は、「牛は全頭検査しているんですよね。この関係ではないか」と質問すると。「そうですね」と。

和牛肉は、たいへん高額なものです。まあ、日頃、庶民の口には入らないでしょう。カネ持ちの食べるものには、全頭検査です。ただし、内臓は検査外、危ないです！

また、牧草は、何カ所かでの検査で1カ所でも基準値超えが出れば、今年度利用は禁止されます。しかし、人間様の食べるものは、市内1点の検査で、基準を超えると、別のものを検査して、基準値以下だと市場に出回ります。庶民は、健康被害を受けても個人の問題にされるし、県は一人ひとりの健康診断なんて考えていませんから…？

チラシ配布から-2　人の声を聞くと孤立感は吹っ飛びます！

この間、住宅地内で1000人近くの人たちに声を掛け、チラシを渡しています。そして、配布を断られた人は10数人です。中には、何のチラシか分からず拒否した人もいます。こんなときは、ドキッとします。他に、「気にしていない」「考えたら暮らせなくなっちゃう」‥‥と言いながら受け取ってくれた人は、20数人います。そして、多くの人は、チラシを受け取り「ごくろうさん」‥‥と言ってくれます。汗だくで疲れた身体も忘れさせてくれます。ほとんどの人が放射能汚染を心配していると思います。私は、多くの人の声を聞くと、自分だけという孤立感は吹っ飛び、間違っていないと元気が出ます。身近な人や、他の人と話さないと、知らぬうちに孤立感が襲います。みなさんも、気を付けてください。